# 青き楓

島高だより
令和４年 12 月号
（通巻第 201 号）
長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

職員室から

## 「感謝」

保健体育主任　福田俊太郎

令和４年８月８日、全国高等学校総合体育大会剣道大会最終日、激闘の末、長崎県勢男子団体初となる悲願の優勝を果たすことができました。今でも強く印象に残っているのが、最終日の選手たちの「顔つき」でした。一切迷いが感じられない「あとはやるだけ」といった思いがあふれる頼もしく清々しい表情でした。「積み上げてきたもので勝負」「気迫で相手を上回る」日頃の教えをしっかり表現してくれた一日でした。今大会に参加したのは、男子団体・個人選手、女子個人選手・練習相手の計９名です。新型コロナウイルス感染症に対応した観客制限がある大会運営の為、残念ながら残り４６名の部員は島原からリモートでの応援となりました。優勝の瞬間、スマートフォンに向けて涙を流しながら喜んでいたと聞きました。今回はこのメンバーで戦いましたが、次の大会があれば同じメンバーとは限りません。それだけ厳しく、激しい部内での競争があります。そういった仲間の存在がチームを支え力になっています。ありがとう。今回の優勝は、部員５５名全員が同じ気持ちで臨み戦い勝ち取った結果であったと改めて感じました。

今期のチームを振り返ると、男女ともに身長が高く体格の良い生徒が多く在籍していましたので全国での活躍を期待していました。しかし、試合経験不足・怪我等、不安要素も多く抱えていたため思い描く試合ができず、男子は県内で優勝できない時期が春先まで続きました。特に男女アベックで全国選抜大会の出場権を逃したことはなかなか受け入れることができない現実でした。「日本一」を目指した稽古を積み重ねているけれど、日本一どころか全国で戦うことすらできないことは本当に辛く苦しい経験だったと思います。そんな敗戦を乗り越え「夏こそは」の気持ちを持ち続けた生徒たちは精神的に大きく成長し、無限の可能性を証明してくれました。ある生徒に「何で日本一を達成することができたと思うか」と聞いたことがあります。その生徒はこのように答えました。「島原高校には日本一を目指す環境が整っています。思い切って剣道に打ち込めます。毎日の稽古、全国の強豪校との練習試合、ＯＢ・ＯＧの活躍、保護者会・島剣会（ＯＢ会）の献身的なサポート、島原高校教職員の温かいご指導、そして寮を運営していただいている宮崎様・高原様の長きにわたる献身的なサポート等多くの方々に支えていただいていることを強く感じています。自分達にできることは結果で恩返しすることしかできません。」皆様方の支えが生徒達の精神的成長に大きくつながっていることを強く実感しました。

高校３年間は多感な時期でもあり、多くの失敗・成功を繰り返し経験する中で人間的に大きく成長していくものだと感じています。その中で「ありがとうございます」「おかげさまで」といった気持ちの大切さに気付きその思いに応えようと努力することが、身に着けた力を発揮できる状態に近づき、大きな運を引き寄せるような気がします。

島高生は「本番で力が発揮できる、本番に強い」そのような伝統があります。

生徒の皆さん「可能性は無限大です」

## 1月の主な行事予定

４日（水）共通テストプレテスト（3 年　～5 日）
６日（金）冬季補習(全学年　～７日)
10日（火）始業式・校内実力テスト(1・2年)
11日（水）校内実力テスト（1・2年）
13日（金）大学入学共通テスト出陣式
14日（土）大学入学共通テスト（3年～15日）
　　進研実力テスト(1・2年)
15日（日）進研実力テスト(2年)
17日（火）特別編成授業開始(３年)
19日（木）生徒朝会(表彰伝達式)
20日（金）英検一次
25日（水）マラソン大会（1・2年）
28日（土）土曜講座(3年)
　　ハイレベル模試(1年)
　　東大模試・全統模試(2年)
31日（火）前期選抜会場設営(午後放課)

## 修学旅行

２学年

１２月１３日から１２月１５日まで、東京方面への２泊３日の修学旅行を実施しました。当初はシンガポール・マレーシアへの海外修学旅行を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で国内への修学旅行と変更しました。１日目は東京ディズニーシー、２日目は文系、理系に分かれての研修、３日目は上野地区研修を実施しました。各研修を通して、普段の学校生活では経験できないことを学ぶことができました。また、修学旅行を通して、クラスメートとの親睦を深めたり、集団生活のマナーやルールを学んだりすることで、思い出深い旅行になったようです。保護者の皆様には、ご心配をおかけした面もあったと思いますが、様々な面で支援していただき、誠にありがとうございました。今後も生徒たちが成長できるよう指導してまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 妊婦体験・沐浴実習

家庭科　原口　里香

１年生家庭科の授業で全クラス「妊婦体験」を行いました。授業の前半は妊婦体験スーツを着用して妊婦体験をしたり、陣痛のしくみや出産、赤ちゃん抱っこの仕方などを助産師佐藤信子先生から教えていただいたりしました。後半には、沐浴練習用の赤ちゃんで沐浴実習を行いました。生徒にとっては初めての経験ばかりでしたが、両親や周りの人への感謝の気持ちが芽生え、命の温かさに触れるとても貴重な時間となりました。また、お母様方がボランティアでお手伝いをしてくださいました。ご協力いただきありがとうございました。

＜生徒感想＞

〇今回妊婦体験の授業を受けて、母親はとても大変な思いをして、自分を産み、ここまで育ててくれたのだと分かり、母に対する感謝が強まりました。また、母だけでなく父も自分が産まれるまで母を支えたり母と協力しながら家事や育児を頑張ってくれたりしたんだと思い、自分も両親のように子どもを育てるときは愛情を込め、大切に育てていきたいです。（男子）

〇今日の妊婦体験で、最初は子供を産むことに恐怖を感じていたけど、陣痛は生理痛と同じように子宮が絞られていると知り、そこまで怖がらなくても大丈夫なんだと思いました。また、私が今幸せに過ごせているのは父と母をはじめ、たくさんの人が支えてくれたからだと思うと感謝の気持ちでいっぱいになります。私が母となったときはたくさん愛情を注ごうと思います。（女子）